

3月号は、p.1『12期生が卒業しました』、p.2『卒業生の言葉』、p.4『9年保護者の言葉』、p.6『卒業プロジェクト発表』、p.7『3学期 修了の会』、p.8『卒業オイリュトミー発表 / 卒業を祝う会』のトピックでお届けします。

12期生が卒業しました



2025年3月16日、横浜シュタイナー学園12期生16名がこの学園を旅立ちました。卒業式は一人ひとりが凛々しい姿で輝いていました。

2016年にこのクラスは11名でスタートしました。今ではこんな大きくなった子どもたち、小さかったなあと思ひ出します。そしてほわーんとした真綿にくるまれたような雰囲気をもっていました。1年夏休みを終え、お仕事の都合で、1名京田辺シュタイナー学校に転校し、その年の11月に1名が転入してきました。2年にあがるタイミングで3名が転入し14名でスタート。3年10月、家づくりの時期から、さらに1名が増え15名。4年の2学期には、京都へ行っていた生徒が戻ってきて16名、そして5年の2月にさらに1名が入り17名となりました。その後8年劇を終えて、お仕事の都合で1名が転出し、最後は16名で卒業を迎えることになりました。

たくさんの方があった9年間でたくさん思い出があります。卒業アルバムに9年間で振り返ることができればと書いたものがあるので紹介させてください。

きらきらと 輝くひとみで	やってきた	
	期待いっぱい	一年生
オディーリエ	マルティン	ニコラウス
	お話聞いた	二年生
畑仕事に	たんぼ仕事	家も作って汗流す
	よく働いた	三年生
あばれ川と村人たち	横浜開港物語	
	劇で学んだ	四年生
山の学校	日本地理	古代の学びも始まった
	世界が広がる	五年生
賢治・藤野と三校交流	ポエニ戦争	十字軍
	奈良を歩いた	六年生
新たな世界へ大航海	リングもやったジャグリング	
	挑戦するぞ	七年生

9年生担任 横山 義宏

8年劇を頑張った みんなの力の結集だ
空も飛んだぞ 八年生
学園祭 農業実習 英語劇 下級生をひっぱって
楽しませたよ 九年生
山の学校の時には、愛川の発展の歴史を劇にしました。現地でその劇を行った際のことです。ふれあいの村は広場がたくさんあり、ファイヤープレイスもありました。ある生徒が、「先生ここで劇やりましょう」と提案し、その場所で劇をおこないました。緑に囲まれて行った劇は、まるでギリシャ時代の円形劇場のような光景でした。

6年の奈良旅行、グループに分かれて、地図を見ながら指定された場所に行き質問に答えるということを行いました。夏の下見で問題を作ってきたのですが、ある場所の質問に対して「先生、あれなかった」という声。質問の対象が夏から秋までの間に変わってしまったのでした。みんなごめん。そんな笑い話になるようなこともありました。

7年生の体育授業の後、校舎に歩いて戻ってくるとき、ある生徒が「先生、宿泊の授業はもうないんですか」とわたしに尋ねました。その時は、「次は9年の農業実習かな」と答えましたが、みんなで宿泊したいんだなと強い気持ちを感じました。それが8年の劇合宿につながりました。ちょうど物理の学びで流体力学をやっている富士の裾野でパラグライダーの体験をしようと思っていたので、劇の練習と合わせて合宿を組むことにしました。空を飛ばす体験とみんなで過ごす夜。行けてよかった、楽しかったなあと思ひ出します。

すばらしい力を秘めている子どもたち。そんな彼らの声を聞いて進めていくことから、実りある体験が創造される。そう実感したことが本当に多くありました。

シュタイナー教育ができていだろうか、学びは年齢にふさわしいやり方になっているか、楽しいものになっているか、自問自答の日々でした。でも、その答えはいつも子どもたちが教えてくれました。声や表情、しぐさを通して。そうして一緒に歩むためには、子どもたちと呼吸していくことが大切でした。ともに呼吸し日々を生み出していくこと。そして、子どもたちがストレスを感じることなく過ごせること。努力しましたが、どうだったでしょうか。ただこれだけは言えます。振り返って総じて楽しかった9年間だったと。

最後に、今日ここまで来ることができたのは、9年を担当した専科の先生方をはじめ、そのほかの先生方、子どもたちの先輩、後輩たち、そして保護者の皆様のお力添えがあったことだと思います。長い間本当にありがとうございました。卒業していく16名がいつも光に満ちていますように。

出会うことで
可能性が広がり
別れることで
器が広がる
今はわからなくても
わかる日がある。
今の今まで本当に
お世話になりました。
ありがとうございました。
内田昂斗

9年間本当にお世話に
なりました。これからはこの9年間
の学びを糧に生きていけたら
いいと思います。
今までありがとうございました。
紙谷翔平

9年間本当にお世話になりました
ありがとうございました
この9年間は短いおで長かったです。横浜を
卒業するのは寂しいですが、今まで学んできたこと
をしっかりと活かしていきたいと思います。
今まで支えてくださった横山先生、先生方、保護者のみな
さん先輩方、後輩達に感謝いたします。
ありがとうございました 内山陽地ま

この9年間、横浜ジュナイター学園で
お世話になりました。ありがとうございました。
この学校での経験を思い出して生か
していきたいと思います。
9年間本当にありがとうございました。
CUNE 芽

僕は3年生の頃この学園に入りました。
公立とは色々な面で違うこの
学園での楽しかった生活がとても
名残り惜しいです。
先生方、クラスメイト、保護者の皆さん、
先輩の皆さん、後輩の皆さん
その他支えて下さったすべての皆さん
約6年間、大変お世話になりました。
加藤山 想生

8年間、本当にお世話になりました。
1年生のころ公立の学校に行っていた僕
にとってジュナイター学園は学校をこえた
存在でした。沢山の事を学びさせていただ
けました。みなさまにこの場を借りて
感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。
ありがとうございました 澁川 穂久

横浜ジュナイター学園で過ごした
4年2か月、第7、第11、第12学園生活。
みんなが当たり前でできることが
私にはできません。
それでも第7にいる時間のほうが長い
下の学園生活を不と思っています。
ありがとうございました。 金子 楓侑

8年間、本当にお世話になりました。
私は、この横浜ジュナイター学園で、
本当に沢山のものをもらいました。2年生のときにこの
学園に入りましたが、あのまま公立にずっと続けて
いたら買収されなかったであろう沢山の美しい
ものを自分のものとする事ができました。
ここで得られたものは生涯宝物に存じます。
この学園に通うことができて良かったです。
本当にありがとうございました。
澁川 ほむ



お世話になった方へ

今までありがとうございました。

お世話になりました。



励華

あ、という間に過ぎ去っていった時間
でしたが本当に楽しく充実した6年間でした。
言葉では言い表わせきれないほどお世話になった
先生方、そして先輩、後輩、クラスみんな、保護者の
皆様本当にありがとうございました。
この学園で学び、培ってきた事はこれからの
人生を歩むための糧になると 생각합니다。

本当にありがとうございました。

高田 悠伍

8年間ありがとうございました。

このジュナイター学園での学び、
体験は楽しい、自分のためにな
るものだったと思います。

今まで支えてくださったすべての
皆様本当にありがとうございました。
これから自分らしく歩んで行き
たいと思います。 徳田 悠人

九年間、お世話になった先生方、
支えてくださった保護者の皆様、
沢山の楽しい思い出をありがとうくれた
クラスメイト、後輩の皆様

本当にありがとうございました。



福田 裕己

本当に色々な事があった9年間、特に受験
の3年間は本当に充実していて沢山の事を自分の
中に取り込めたことができて、
今は二期生というこのタイミングでこの学園に通う
ことができ、本当に良かったと思っています。
お世話になった両親、先生方、先輩たちに後輩たち
クラスメイト、そしてどんな時も寄り添ってくれて僕を
信じてくれた柳本先生ににがらお礼を言いた
い
ありがとうございました。 高橋 拓路

長いとも短いとも感じられる9年間。
沢山の経験を通して様々な感情にもみくちやに
さらながら、少しずつ成長してこれたと思っています。
これまでお世話になった先生方、保護者の皆さん
9年間ありがとうございました。

そして楽しい思い出をくれたクラスメイトのみんな
本当にありがとう◎

この学園で過ごした9年間を胸にこれからも
自分らしく成長していきたいと思っています!!

松山 ちやん

僕に関わってくれたすべての
皆さん本当に9年間お世話にな
りました。

今後僕は「自分の道」を歩んでいき
たいです。みなさんもブレずに自分の
道を歩んでください。 都坂 草介
ありがとうございました。

ここでの日々はあ、という間で、
卒業したなんてまだ信じられません。
本当に楽しい学園生活でした。
楽しいと感じられたのは皆様の
おかげです。
クラスのみんな、先輩、後輩方、横山先生をほ
いめとする先生方、保護者の皆様、そして両親
お世話になりました。
本当に感謝しています。

桃井 杏樹

昂斗が9年間、貴校での出会いや学びを通じて、個性を失うことなく成長を遂げることができたのは、教職員、事務局、保護者の皆様の温かい支えとご指導のおかげです。心より感謝申し上げます。子どもたちには、これからも多くの貴重な経験が待っていますが、どんな困難にも臆せず信じて進む強さを得ることができました。今後も多くの子どもたちに素晴らしい教育を提供し続けてくださることを願っています。本当にありがとうございました。

(内田明子)

いよいよ今回の卒業をもって完全卒業となります。長きにわたり関わってくださった皆様、大変お世話になりました。

振り返ってみると、「11人いる!」のように謎の宇宙船に乗りこみハラハラドキドキ疑心暗鬼になりながらも、ときに「飛ぶ教室」のように仲間存在に助けられ、最後は「間違いの喜劇」同様何はともあれ笑顔でハッピーエンド(?)な15年でした。

私の学園人生に彩りを与えてくれた家族、クラスの仲間たち、係グループで協力しあった仲間たち、先生方、野球部コーチ、ペレでお世話になった先生方、それから学園関係者の皆様には感謝です。沢山の愛をいただきました。ありがとうございました。

(内山真由美・内山勝文)

これまで横山先生を始め専科の先生や事務局、クラスの皆様等、大変お世話になりました。我が家を受け入れ愛情をもって見守ってくださり、学園の皆様には感謝しかありません。学園での学びが息子の人生に彩を加え肥しとなっていることを日々感じて参りました。

学び継続のため経済面の確保や家庭内の環境、学園保護者と1人3役は時間的な難しさや不安、役割を果たせていない不甲斐なさ等葛藤の日々も、学園の皆様の深い愛情と心を寄せ下さったお陰で、無事卒業の日を迎える事が出来ました。心より感謝申し上げます。

(加瀬山洋子)

小さい頃のあだ名は「せかいのかねこふう」。枠にとらわれず、自由に生きてほしいという願いを込めて母がつけました。公立小学校の同調圧力に違和感を覚え、運命に導かれるように横浜シュタイナー学園へ。そこで過ごした4年間で、自分らしく生きる力を育てて頂きました。横浜卒業後の進路は、世界に広がる千校のシュタイナー学校、その道が現実となり、新たな世界へと踏み出します。個性を尊重し、生き方を見守り、導いてくださった先生方、そして楓侑を仲間を迎え入れてくれた皆さんに、心から感謝します。ありがとうございました。

(関谷晃一・金子留美)

入学前、自分に自信が持てなかった翔平が「自分は自分でいい」という揺るぎない想いを持つ人になりました。いわゆる「根拠のない自信」です。これはひとえに今まで見守ってくださっていた先生方、そして関わってくださったすべての皆さまのおかげです。

翔平がある日唐突に「僕はね、お金持ちになりたいと思わなくなったんだ。頑張り過ぎず自分の必要な分だけ持って、周りの人を大切に生きていくことが幸せだと思うんだ。」と。その想いを持てるのがどれだけ人生を豊かにするか。笑って泣いて、全力で彼の人生を楽しんで欲しいです。

(紙谷史彰・紙谷愛)

シュタイナー園へ年中で編入し、そこで過ごしたベースとなる貴重な体験共に、娘にとっての義務教育の時期を「横浜シュタイナー学園」でご縁をいただきました。

「自由への教育」を歩むと共に、魂の成長に向き合う気持ちでスタート、9年間という確かな時を過ごさせていただきました。

向き合いたくない事も多々ある中親子共々なりに精一杯に生きる。自分と照らし合わせる鏡を見ながら試行錯誤し歩み続けた9年間。出会った皆様とお互いの心に触れ合った瞬間瞬間が尊い思い出です。横浜シュタイナー学園が発展し続けていることを心より願います。今後とも何かの循環により恩返しをしたいと思います。

(クライン アンディ・クライン 真弓)

二人が2年生で転入してから8年、ついに卒業のときが来てしまいました。まだ先だと思っていたのに、十日市場校舎へ登校する彼らの姿は、毎年送り出してきた卒業生たちが纏っていた空気と同じ。

この共同体の中で守られ感じてきたものは彼らの土台となり、いつか社会に出たときに改めてそれらに気がつくときが来る。誇りをもってこの学園が好きだと言う彼らが、いつか他の人のために同じものを分かち合えるときが必ず来る。

それがこの学園への恩返しです。

ずっとみていて下さった横山先生、専科の先生、事務局の皆さま、保護者の皆さま、言い表せないほどの感謝があります。今まで本当にありがとうございました。

(渋川聡・渋川亜樹)

15年間お世話になりました。思い返せば、いくつもの情景が浮かび、懐かしいです。入学前保護者会の情景から、保護者会、活動グループや様々な行事、クラス活動、聖夜劇、オヤジ会、野球部、書ききれない思い出や繋がりがありました。志高く学園を支えている先生方や保護者の方の熱が暖かい雰囲気となって学園に浸透し、それが子どもたちの健全な成長の源泉になっているのがよくわかりました。私もそこからエ

エネルギーをいただき、学園への奉仕の気持ちを持ち続けてこられたと思います。頭と心と手を寄せ合うことが学園のモットー。卒業してもその思いを大事にしていきたいです。ありがとうございました。

(鈴木直亮)

クラスみんな、先生方、学園の皆さま
6年間ありがとうございました!!

カラフルな仲間たちと、心と身体を動かし様々な体験を重ねた学園 LIFE !! 私たちも沢山の事を学びました、この喜びと共に歩んでゆきます。(母)

入学、転校、転入とあつという間の時でしたが、横山先生をはじめ、先生方の情熱と包容力のおかげで、息子は遅く成長することができました。学園で学んだ子どもたちが、どの様に羽ばたいてゆくのか愉しみに仕方ありません。(父)
親子共々、皆さまと過ごせた時に感謝しております、ありがとうございました! 祝福を!!

(高田)

心身ともに大きくなり毎晩先生方への色紙製作やメッセージ作りに勤しむ拓路を見て、横浜シュタイナー学園での課程が修了しつつあることを実感しています。この9年間、息子を見守り育ててくださった教職員や保護者の皆さまに心からのお礼を申し上げます。ありがとうございました。あの、小さかった9年生たちには「自分を大事にすること。大事にされること。」を胸に人生を十分に謳歌して欲しいです。そして、、9年もの間、共に子どもたちを見守り共に過ごしてくださった9年保護者の皆さんとお別れも寂しい限り(涙)。どうもありがとうございました!そしてこれからもどうぞよろしくお願いします!

(高橋京子)

入学前のオープンデイ、9年生の男の子が大人たちと対等に意見を交わす姿に感銘を受け、我が子もこんな風に成長して欲しいと思ったものでした。入学当初、引っ込み思案だった草介も、今では自分の意見をしっかり伝える子に成長しました。自分が自分であることを大切に、「人間とは?」という根源的な問いに向き合いながら、「自分にできること」や「やりたいこと」を堂々と語り、他者の意見に対しては尊重するスタンスの彼を微笑ましくながめています。まだ成長途中ではありますが、これからも親として応援し続けていきたいです。9年間、温かく見守ってくださった先生方に心から感謝しています。本当にありがとうございました。

(都坂和真・都坂尚子)

横並木をわくわくした期待と共に、息子と初めて登校した日が新鮮に思い出されます。

長かったようであつという間に卒業を迎えます。たくさんの学びや体験を共にして育ち合ってきました。一緒に過ごしたクラスの仲間たちとは強い絆で結ばれているでしょう。

我が子のようにそれぞれの成長を感じ胸がいっぱいです。この学園で過した時間はこれから先歩んでいく未来にかけがえない礎となるでしょう。

横山先生、学園で関わって下さった先生方、保護者の皆さま、お友達、本当にお世話になりました。

(徳田和宏・徳田千穂)

横並木沿いの小さな学び舎に入学したのは、遙か昔のような、つい昨日のような感じもします。自由への教育、芸術としての教育の意味を、今、父と肩を並べるほどになり、卒プロを成し遂げた我が子を見れば実感できます。親同士の出会いと関わりも忘れ難く、貴重なものでした。「子と一緒に親も育つのです」の言葉が想い出されます。親も成長できたのでしょうか。子が幼いときには守りとなり、やがてぶつかり乗り越える存在として、9年間そこに居てくださった横山先生に、敬意と慰労と感謝を表します。そして子を導き支えてくださった学園の全ての皆さん、ありがとうございました。

(福田憲明・福田英子)

小さい頃は挨拶をされても無言無表情直立不動が彼女の返答だった。芋栗南瓜否定形女子でサイズは小さめ。大の病院嫌いで乳歯虫歯7本。学校は大好きで朝はスキップ登校。学ぶことを全力で楽しんだ。手仕事の授業があるからと祖母の葬儀を泣いて拒否したことも。段々自信がついてきた。こだわりが強いがやると決めたことを最後までやり遂げる力を得た。悩み悲しいこともあった。でも最後はしなやかに、美しく、壁を飛び越えていく姿があった。彼女らしさがゆるやかに花開いてきた。娘を見守ってくださった全ての皆さまに言葉に尽くせないほどの感謝を。

(松山昌弘・松山周子)

一年生の秋、赤の水玉・半袖ワンピースに赤の鼻緒の草履で初めて登校した我が子。無知が故、学園のタブー全開で「あの子の親、大丈夫?」と思われていたはず。

仕事と子育てに追われ、この教育のことは、ほぼ保護者会で教わる。初めての保護者会では、暗い教室で蝋燭を灯し、輪になって横山クラスの保護者に迎えられた。まるで魔女と魔法使いの集会のよう。

「この教育は治癒教育です。」と、力説していた横山先生。本当にそうだった。血の通った、心と身体を育ててくれる教育。先生方に感謝。期待より信頼。クラスみんなもありがとう。

(AM)



「自転車」



「ボーイング787ドリームライナー」



「蛍光発光する石と研磨の魅力について」



「城郭」



「本のかたち」



「リトルプリンス・トリック ～『星の王子さま』に隠されたメッセージ～」



「レオナルド・ダ・ヴィンチについて」



「音楽の力」



「猫の殺処分と保護活動」



「スポーツメンタルについて -私のスポーツ人生とは-」



「山と人間」 -一人は何故山に登るのか-



「サバイバルとは何か」



「和菓子・上生菓子」



「本物に見える絵とは」



「琉球音階とエイサー」



「Quality of Motion」

3学期末の「修了の会」では1年生から9年生までの子どもたちが登場し、1年間学んできたことを教職員、保護者、他学年の子どもたちに見守られながら披露します。

学年が上がるごとに変化する体つき、動き方、そして発表内容から子どもたちの成長を喜びをもって受けとめていく貴重な機会となっています。



1年生 リズムの時間より



2年生 中国語
天気、漢詩、九九消寒(くくし
うかん)、十二支、歌「列車は速い」
/「可愛いあなたの笑顔」



3年生 中国語
中国語の九九、手足の詩、足じゃん
けん



4年生 リズムの時間より



5年生 ういろう売り



6年生 器楽合奏
Franz Schubert / Die Forelle ます



7年生 ジャグリング



8年生 手しごと
オイリュトミークライトのお披露目



9年生 器楽合奏
Christopher Tin / Baba Yetu
村松崇継 / 彼方の光



合同合奏 Johann Strauss I. / Radetzky-Marsch
Friedrich Smetana / Die Moldau
Henry Rowley Bishop / Home Sweet
Home 殖生の宿

毎年、修了の会に引き続いて卒業を祝う会が持たれます。

卒業式に参加することができない低学年も含め、全校児童生徒で9年生の卒業と門出を祝いました。

9年生が練習を重ねた卒業オイリュトミーを披露し、会場は大きな拍手と感動で包まれました。9年生からの言葉、担任の横山義宏先生からの言葉、そして会場の全員で音楽部の伴奏とともに「卒業を祝う歌」「学園に捧げる歌」を合唱しました。



L.v. ベートーヴェン ピアノソナタ第14番「月光」第一楽章、第三楽章
新約聖書 パウロ書簡 エフェゾス人への手紙 6章 10節



横浜シュタイナー学園 ～Newsletter 第168号～
2025年3月27日発行

編集：広報の会

発行：NPO 法人横浜シュタイナー学園

<https://yokohama-steiner.jp>

〒226-0016 横浜市緑区霧が丘3丁目1-20

TEL 045-922-3107

※ 掲載内容の無断転載をお断りします